

# 令和4年度 学校評価表

学校教育目標: 挑戦と貢献 ～主体的に学び、自らの進路を切り拓く生徒の育成～

A 100～80% B 79～60% C 59～40% D 39～0%

	中期経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方策	成果指標	目標値	中間達成値	最終達成値	分 析	今後の改善策
確かな学力の育成	主体的な学びの創造による学力の向上	基礎・基本の学力の確実な定着	・生徒の振り返りを基にした授業改善による学びの質的向上 ・教科等横断的な単元開発による授業改善の充実	国・市の学力調査の平均正答率	国、市の平均値以上	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人1回の校内授業研修を実施し、生徒の振り返りの効果を検証しながら授業改善を図った。また、生徒アンケートをもとに、生徒実態を分析する校内研修を行い、生徒の課題を全教職員で共有した。</li> <li>「河川教育」による教科横断的な学習を実践するとともに、どのような力が身についたかを生徒自身が振り返る「塩中タイム」を実施し、生徒自身が自己理解を深める取組を行った。また、「河川教育」を通してのカリキュラム・マネジメントや教育効果についても校内研修を行い、全教職員で方向性を再確認した。</li> <li>1月に実施した1・2学年の三次市学力到達度検査では、2年生理科以外はすべて、全国、市平均を上回った。(2年生理科全国平均-5.8ポイント、市平均-3.4ポイント)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1・2年生では三次市学力到達度検査の結果分析を行い、正答率の低い設問、また正答率の低かった生徒について指導を行う。また、次年度に向け課題を全体で共有する。</li> <li>3年生については、進路実現に向け、引き続き授業・放課後補習での指導を実施する。</li> <li>一昨年度より実施している「河川学習」について、全学年で2年目の取組となった。カリキュラムの見直しを図ることもでき、効果の検証等も行うことができた。次年度は全学年での3年目の取組となる。より改善を図るために、年度内に取組の振り返りを行い、次年度に向けての計画を具体的に立てる。</li> </ul>
		学習意欲の向上	・授業と家庭学習との効果的な連動 ・学習の深化につながる質の高い議論に重点を置いた表現力の向上	教科の学習・授業が「よくわかる」という意識をもつ生徒の割合	全学年・全教科80%以上	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒にタブレットを毎日持ち帰らせ、家庭で取り組める学習内容の提示などをタブレットで行ったり、出席停止等で自宅待機の生徒に対して授業配信を行ったりするなど、端末を利用して家庭学習との充実を図った。</li> <li>12月に行った生徒アンケートで5教科について「授業がよくわかる」と肯定的回答をした生徒は、全校で87.3%で、7月より0.3%上回った。1学年91.9%、2学年82.6%、3学年83.5%で、80%を下回ったのが2学年英語(71.1%)と3年数学(68.6%)であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度より、デジタルドリルが導入され、各生徒の実態に合った教材を提供しやすい状況になってくる。全教職員がデジタルドリルを活用できるようにし、その教育効果を図るため、研修を行う。また、引き続き、その他のICTを活用した実践を共有し、効果を高める。</li> <li>各授業の中で、学習の深化につながるような質の高い議論への指導・検証が十分でないため、検討が必要である。</li> </ul>
豊かな心の育成	生徒の規範意識の醸成と望ましい集団づくりの推進	生徒指導上の諸課題の解決	・個別最適な対応を見据えた積極的生徒指導の推進 ・生徒が安心して過ごすことのできる環境整備 ・関係機関との積極的な連携	年間30日以上欠席がある生徒数	前年度比50%以下	B	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度末は全校で11名の年間30日以上欠席がある生徒がいたが、今年度は1月31日現在で11名である。</li> <li>欠席が30日を超えた生徒の中でも、SSRを利用して週に数日も登校できている生徒もおり、SSRの存在には登校を促す一定の効果があると考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どの生徒に対しても家庭との連携を続けていき、学校とのつながりを絶やさない。また、登校時間にとらわれず、SSR等を活用し、まずは学校に来ることができるよう、支援をしていく。</li> <li>SCにも協力してもらい、様々な方向から生徒が登校できるよう、支援を続けていく。</li> </ul>
		生徒の自治活動の充実	・生徒会の提案による課題解決の取組 ・学校行事、地域行事への生徒の積極的参画の支援	自己肯定感・自己有用感に肯定的意識をもつ生徒の割合	全学年80%以上	B	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自分にはいいところがある」と肯定的に回答した割合は、1年生74.5%、2年生71.5%、3年生75.5%で、全体では73.8%であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校全体で各授業や学校行事の取組を評価し、よかった部分をほめる。</li> <li>生徒会執行部を中心に生徒自身によりよい学校にするための取組を考えさせる。</li> </ul>
健やかな体の育成	生活習慣の改善と体力の向上	基本的生活習慣の確立	・生活調査の結果を基にした保護者への啓発 ・小中一貫保健主事部会と連動した授業の実施	家庭学習の時間が目標に達している生徒の割合	全学年80%以上	B	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>「平日、家で1日何時間ぐらゐ勉強していますか」の質問に、60分以上の時間を回答した生徒は60.5%であった。1学期を(62.7%)を下回っている。</li> <li>生活習慣の乱れから体調不良、欠席が続いていると考えられる事例については、保護者と面談等を行う等の連携を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平日にテレビ視聴やゲームを3時間以上している生徒が27.5%いる。1学期より4.5%減少しているが、2時間以上視聴している生徒は51%いる。スマートフォンも含めたメディア使用や学習時間についての指導を継続して行う。</li> <li>小学校とも連携を取り、小中連続しての指導を行う。</li> <li>懇談やたより等を通して家庭への啓発を行うとともに、保護者との連携を行いながら個別の指導を行っている。</li> </ul>
		基礎体力の向上	・体育の授業での体づくり運動 ・体力テスト等の結果分析と課題の焦点・重点化	体力・運動能力調査の結果	全体平均以上の種目70%以上	D	D	<ul style="list-style-type: none"> <li>全学年において体づくり運動の授業を実施した。また、体育の授業では毎時間の補強運動を行った。</li> <li>体力テストでは、全体平均以上の種目は22.9%であった。特に、3年生の女子においては全種目において全国平均を下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き体育の授業や部活動等において、体力向上のための取組を進める。</li> <li>体力テストの結果を生徒自身で分析し、運動計画を立てさせることで、体力の向上に努める。</li> </ul>
信頼される学校づくり	成果の発信、サービス管理による学校信頼度の向上	教育成果の発信	・各種通信やHPによる定期的な発信 ・授業、行事による学校公開の実施	「子供を学校に通わせてよかった」と思う保護者の割合	全体90%以上	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケートでは、「子供を学校に通わせてよかった」と思う保護者の割合は、98.2%(よくあてはまる60.9%、ややあてはまる37.3%)と肯定的な回答をした保護者の割合が9割を超えており、目標値を上回っている。</li> <li>学年別でも、肯定的評価が1年98.5%、2年100%、3年96.3%となっており、どの学年でも90%を超えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画段階から生徒も参加し、行事をつくりあげるなど、生徒主体の取組を進める。</li> <li>授業改善に努め、生徒に確かな学力を付けていく。</li> <li>SSR(スペシャルサポートルーム)をはじめ、全ての生徒に対してきめ細かい指導を行う。</li> <li>家庭連絡や家庭訪問を密にし、保護者と一緒に生徒を育てていく関係をつくる。</li> <li>通信やホームページで情報を発信する。</li> </ul>
		業務効率化の推進	・各分掌による提案による校務運営 ・在校時間縮減のための業務の効率化	不祥事、職員のメンタル不調の発件数	年間0件	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員の不祥事及びメンタル不調は0件であり、目標を達成している。</li> <li>職員の時間外在校時間は、昨年度の94%(月当たり51時間)となっており、微減している。</li> <li>警察との連携が必要となる生徒指導事案が複数件発生しており、日頃からの積極的生徒指導を進める中で、良好な生徒集団づくりを進めていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>来年度の計画立案の中で、業務の見直しを職員全体で考え、実行可能なものから改善していく。</li> <li>市が進めている19時退校を遵守するとともに、入退校時刻を記入し、勤務時間の適正管理に努める。</li> <li>不祥事防止研修を計画的にすすめて、管理職やSCとの面談を行う。</li> <li>安心安全な学校づくりを目指し、生徒の規範意識を高め、生徒がお互いに注意しあえる環境をつくる。</li> </ul>